

第2回 横浜市踊場公園こどもログハウス指定管理者選定委員会議事録	
日 時	平成27年8月24日（月）13時30分～15時
開催場所	戸塚区役所8階 中会議室2
出席者	菊池委員長、井出委員、川渕委員、柴田委員、渡辺委員 区) 地域振興課長 高嶋 区民利用施設担当係長 加藤、栗原、古尾谷
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者0人） 審議については、非公開
議 題	1 定足数確認 2 申請団体によるプレゼンテーション及び質疑応答 3 審議
決定事項	1 定足数の確認 委員全員が出席のため、委員会は成立 2 横浜市踊場公園こどもログハウス指定管理者の候補者について 最低評価基準の7割以上を超えたことを確認し、「公益社団法人とつか区民活動支援協会」を指定管理候補者として区長に報告をする。
質疑応答	「公益社団法人とつか区民活動支援協会」によるプレゼンテーション10分を実施 【質疑応答】 委員) トラブルやクレームがあった時にどのような対応をしているか。 団体) スタッフ内で情報共有し、問題解決に向けて検討している。法人の苦情対応マニュアルに則った対応をしている。 委員) 木のぬくもりを感じるとうたっているが、地域にどのようにアピールしているか。 団体) 素足で木のぬくもりを感じながら遊べる点は売りにしている。地域連携を主とした自主事業は実施している。 委員) 災害時の運営マニュアルは別にあるのか。 団体) もう少し詳しい管理マニュアルがある。 委員) 利用者ニーズの把握手段として、感想箱の設置などされているが、受身の姿勢の印象がある。どのように地域ニーズを把握しているか。 団体) 来館した子どもの意見は多い。大人も感想箱に意見等を入れてくれるのでニーズ把握はできている。 委員) 子育て支援は幅が広い。この施設でどの辺りを担うと考えているのか。 団体) 乳幼児やお母さん同士との交流の場であり、子育てに悩みを抱える方の集いの場である。月1回民生委員が来て、相談を受けられる場もある。今後は支援機関につなげられるといいと考えている。 委員) 災害時、実際に3.11の時はどのような動きができたか。 団体) スタッフ2名で、それぞれの役割がマニュアルで決まっている。一人は館内利用者の安全確保、もう一人は協会に連絡。実際は繋がらなかったため、現場で判断することになったが、マニュアル通りに行動した。

	<p>委員) 警備会社とあるが、連携はどうなっているか</p> <p>団体) 使用したことはないが、受付カウンターの下にボタンがあり、緊急時に通報できる環境になっている。</p> <p>委員) 地域連携の地域とはどこを指しているのか。ログは区に1館しかないので、区全体の位置づけ、地域の目標をどう把握しているのか。</p> <p>団体) 地域連携としては近くの踊場連合、北汲沢連合。その他ログハウス運営委員会、葛野小や矢部小校外委員もいるので、その範囲と連携をしている。</p> <p>地域の連合の会議に出席をし、年度目標を把握している。</p> <p>委員) 4つの町内があるが、4つとも出席しているのか</p> <p>団体) 踊場連合のみ出席している。</p> <p>委員) SNSの検討とあるが、どのようなことを考えているのか</p> <p>団体) 自主事業について希望者のみが見られるフェイスブックやツイッター等の運用、災害時にどこに避難しているか情報提供ができるように検討している。</p> <p>委員) 収支計画で何を増やして何を減らしているのか</p> <p>団体) 収入は地域の方が利用する印刷機を有料化する、寄附金を集う、読書活動の一環で、こどもゆめ基金の補助金申請をすることを考えている。</p> <p>今後の人件費の上昇が大きいと思うので、定期清掃をスタッフで行うなども検討したい。</p> <p>委員) 遊具修繕について、どの位の頻度で、どのような遊具に必要と見積もっているのか</p> <p>団体) 遊具の修繕については、壊れたときに随時対応。10年前のトランポリンも自分たちで修理した。日頃からメンテナンスをこまめにして、大事に至らないようにしている。</p> <p>委員) 運営方針に子どもの居場所づくりとあるが、ひきこもりや不登校など様々な子どもがいる。どこまで考えているのか。カウンセリング機能まで考えているか。</p> <p>団体) 放課後の居場所、青少年の健全育成の場を考えている。カウンセリング等についてはスタッフの専門知識がないので難しい。</p>
特記事項	